凡例

一、本資料集は、本学で収集した菊池武夫関係史料のうち、明治四年（一八七一）から同三十七年（一九〇四）に至る書簡を収録した。

一、発信・受信別にそれぞれ編年順構成を基本としたが、英文書簡については巻末にまとめた。

一、史料の収録にあたっては、できるかぎり史料の原形をとどめるように留意したが、以下の点については改めた。

一、原則的に表題は、起草開始年月日と発信人または受信人の氏名だけ記した。同封されている書簡や別紙などについては適宜付した。

一、漢字は常用漢字表を使用し、同表にない漢字と人名については原文通りとした。

一、仮名は現字体の文字を使用し、仮名づかい・送り仮名は原文通りとした。

一、合字・当て字は原文通りとした。

一、本文中の差出者による欄外などへの注記は、その該当箇所に（注記）を付して、史料の末尾に記した。差出者以外の注記や書き入れは、該当箇所に注記者の名を入れ（〇〇注記）と付して、史料末尾に記した。

一、封筒がある史料は、封筒面の住所氏名を史料末尾に記し、封筒面にある注記および消印についても前項同様に処置した。

一、史料の本文と同封文、および封筒面の掲載順序は次の通りとする。

本文、本文の注記、同封文、同封文の注記、封筒面、封筒面の注記、消印

一、抹消・朱書の部分は、〔　〕で該当箇所をかこみ、右肩に（抹消）・（朱書）と記した。

一、史料中の字句に疑義が生じた場合は、史料ごとの初出箇所にのみ右肩に（ママ）を付した。

一、史料の欠損などで判読不能の箇所については、字数の判明するものには□、わからないものは□で示した。